

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 ー分析から見てきた成果・課題と今後の取組についてー

区 名 生野

学 校 名 東桃谷小学校

学校長名 末綱 健二

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・東桃谷小学校では、第6学年 37名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○平均正答率において、国語では大阪市平均、全国平均ともに6ポイント上回っている。領域別で見ると、全領域で上回っており、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、大阪市平均、全国平均をそれぞれ、7.7ポイント、8.2ポイント上回り、「話すこと・聞くこと」において、大阪市平均、全国平均をそれぞれ10.9ポイント、10.8ポイント上回った。

○算数では、平均正答率で大阪市平均を5ポイント、全国平均を5.5ポイント下回った。領域別では「図形」「変化と関係」の領域では、大阪市平均、全国平均とさほど変わりはないが、「数と計算」で大阪市平均、全国平均を5ポイント前後下回り、「データの活用」では、それぞれ、14.6ポイント、16.5ポイント下回っている。

○平均無回答率は、国語と算数とも、大阪市平均、全国平均と比してかなり低くなっている。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」に関して、優れた結果となった。言語に関する知識・技能、思考・判断・表現とも大阪市・全国に比して優れた結果を出している。特に、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することや、目的や意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることについてはしっかりとできている。また、漢字についても文の中で正しく使うことができている。ほぼどの問題でも大阪市を上回る結果となっており、国語科で身につけるべき能力が着実に身につけていることが伺える。一方、「読むこと」の中で、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることに関しては、若干の課題がみられた。

〔算数〕問題別の正答率をみると、「図形」領域の台形・正方形・正三角形それぞれの意味や性質を問う問題では、大阪市平均、全国平均とも上回っており、各図形の意味や性質を理解していることがわかる。一方、「データの活用」領域の問題では、大阪市平均、全国平均とも下回っており、示された棒グラフと複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述することや、二次元の表から、条件に見合う数を読み取ることなど、表やグラフを用いた問題に関して課題がある。

質問紙調査より

○朝食の喫食・寝る時刻・起床の時刻の設問からは、基本的な生活習慣が身につけていることがわかる。○「自分には、よいところがあると思いますか」「将来の夢や目標をもっていますか」の問いについては、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答する児童の割合が、大阪市平均・全国平均を上回っており、自尊心や自己肯定感の向上が伺える。○「人が困っているときは、進んで助けていますか」「人の役に立ちたいと思いますか。」の設問にも、肯定的な回答する児童の割合が大阪市平均・全国平均をやや上回っている。○「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の設問に肯定的に回答する児童の割合は高く、児童に寄り添った指導・支援の成果と考える。○学習の中でPCやタブレットの使用頻度や勉強の役に立つかの設問では、肯定的な回答の割合が低く、指導者が思っているほど、児童が使用しているや役に立っているという実感は少なく、今後も児童の考えや意見を交流したりまとめたりする場面で、積極的に活用していく必要がある。

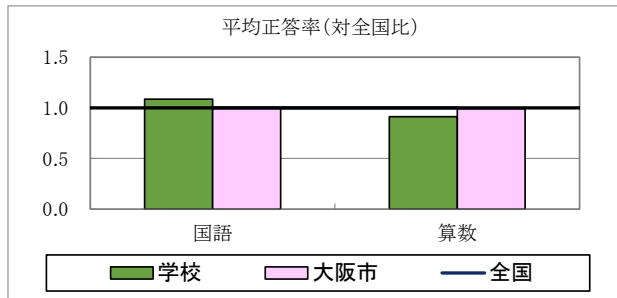
今後の取組(アクションプラン)

国語に関しては、基礎的・基本的事項を一定身につけ、発展的な学習に取り組むこともできている。算数科については、基礎的・基本的事項の定着に一層取り組む必要がある。現在、重点的に取り組んでいる「主体的で対話的な深い学び」の実現に向け、日々の授業を工夫するとともに、校内研修を充実させ、授業研究の積み重ねによる成果の積み上げを図っていく。特に児童の学ぶ意欲の向上に重点をおき、課題追究に対する意欲を継続させる授業を展開していく。めあて、ふりかえりを毎時間設定するとともに、めあてが与えられためあてではなく児童の疑問や気付きから生まれたものになるようにすることが必要である。そのための実践を校内をあげて推進していく。また、現在実施している研究の通り、「主体的・対話的で深い学び」を実現する学習展開を、全教科・領域にわたり実施していく。また、教科横断的な学びを積極的に設定し、思考力・判断力・表現力の育成を図っていく。その中で、自ら課題を見出し、解決していく主体的な課題解決学習の過程を通して学び方を身につけるようにしていく。さらに、資料活用能力を向上するため、さらに図書館の活用と児童の読書量を増やす取り組みを継続する。

【 全体の概要 】

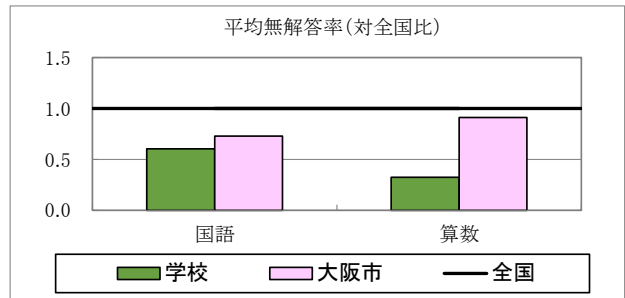
平均正答率 (%)

	国語	算数
学校	73	57
大阪市	67	62
全国	67.2	62.5



平均無解答率 (%)

	国語	算数
学校	2.9	1.1
大阪市	3.5	3.1
全国	4.8	3.4



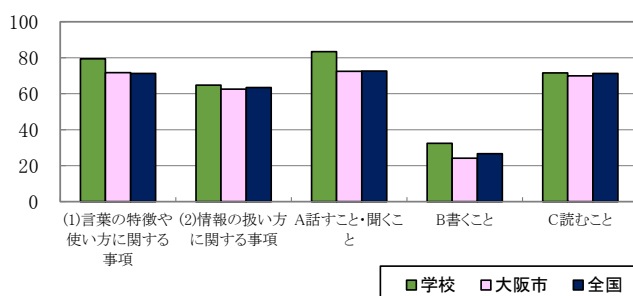
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	5	79.4	71.7	71.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	64.7	62.6	63.4
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	3	83.3	72.4	72.6
B 書くこと	1	32.4	24.2	26.7
C 読むこと	3	71.6	69.9	71.2

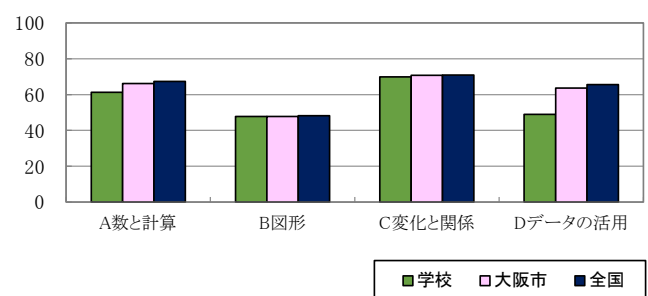
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	61.3	66.1	67.3
B 図形	4	47.8	47.8	48.2
C 測定	0			
C 変化と関係	4	69.9	70.8	70.9
D データの活用	3	49.0	63.6	65.5

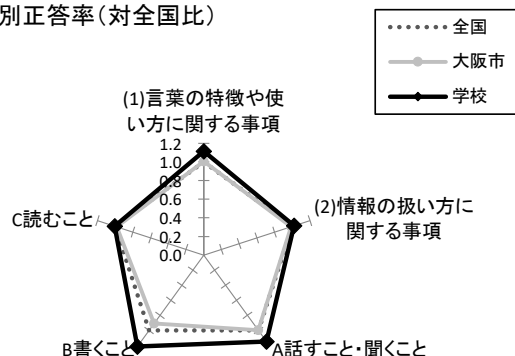
国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



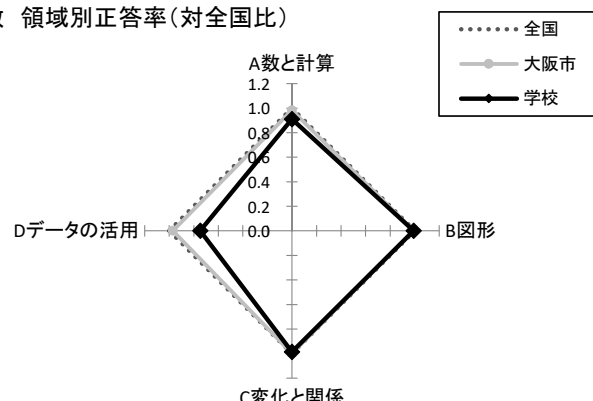
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)



算数 領域別正答率(対全国比)

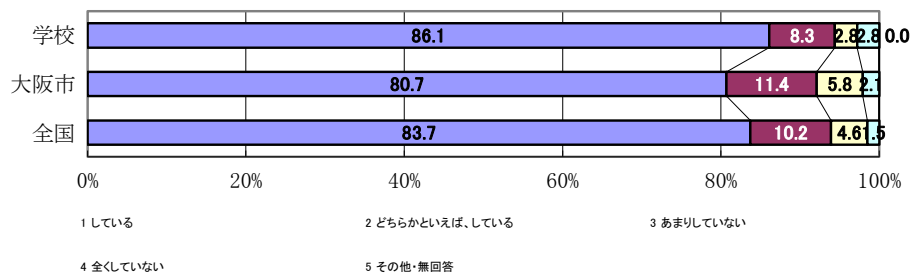


児童質問紙より

質問番号
質問事項

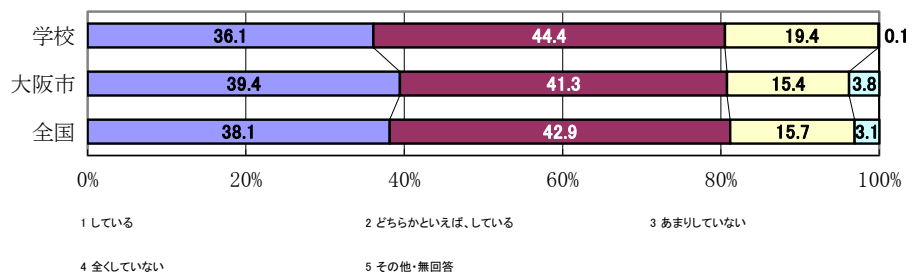
1

朝食を毎日食べている



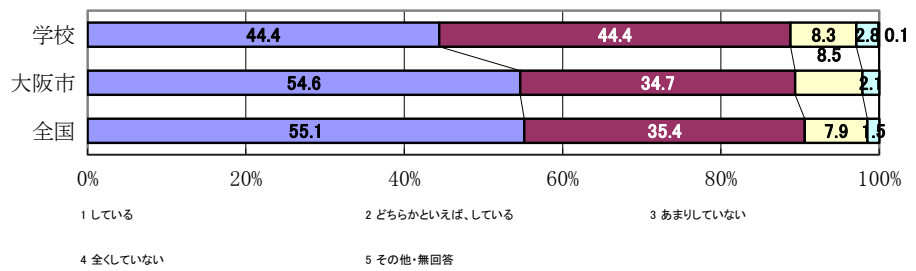
2

毎日、同じくらいの時刻に寝ている



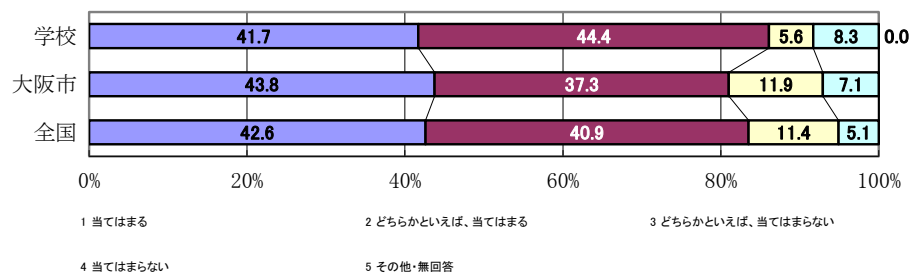
3

毎日、同じくらいの時刻に起きている



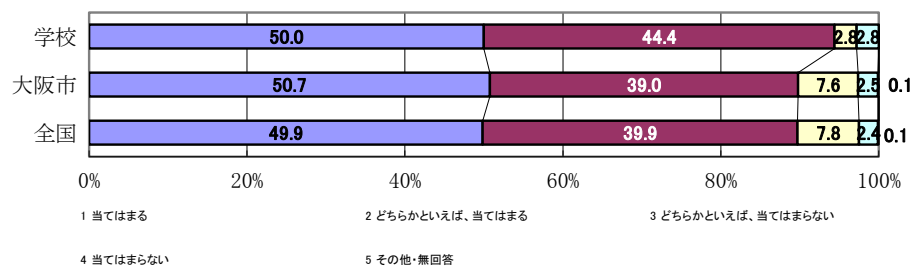
4

自分には、よいところがあると思う



5

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う

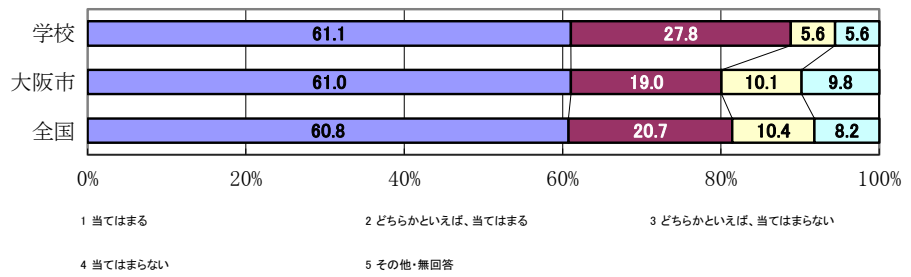


児童質問紙より

質問番号
質問事項

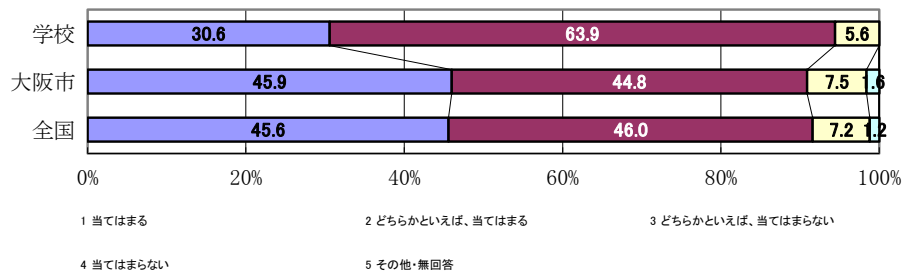
7

将来の夢や目標を持っている



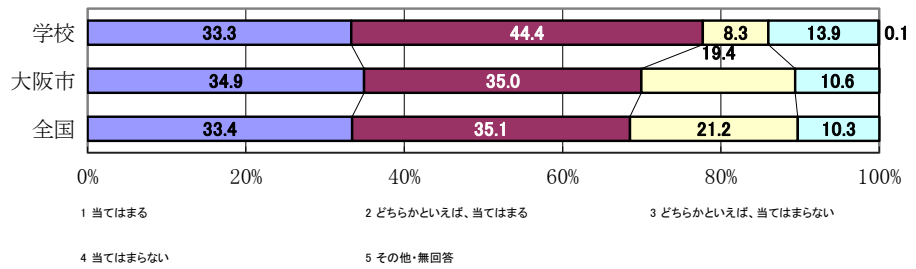
8

人が困っているときは、進んで
助けている



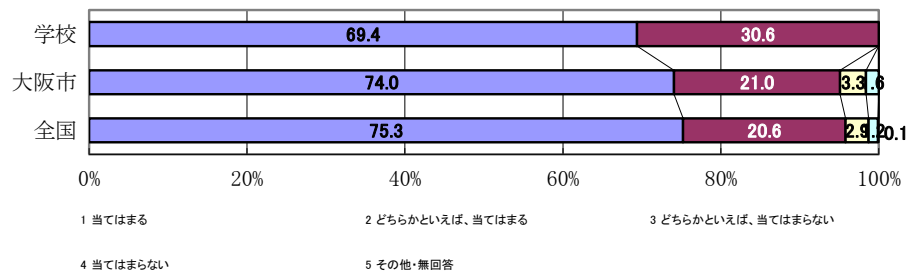
10

困りごとや不安がある時に、先
生や学校にいる大人にいつで
も相談できる



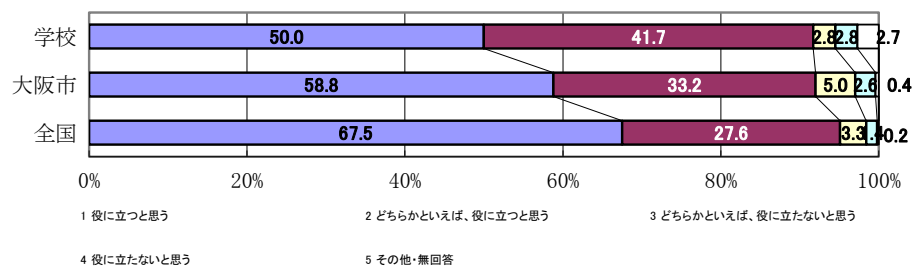
11

人の役に立つ人間になりたい
と思う



30

学習の中でPC・タブレットなど
のICT機器を使うのは勉強の
役に立つと思いますか



学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

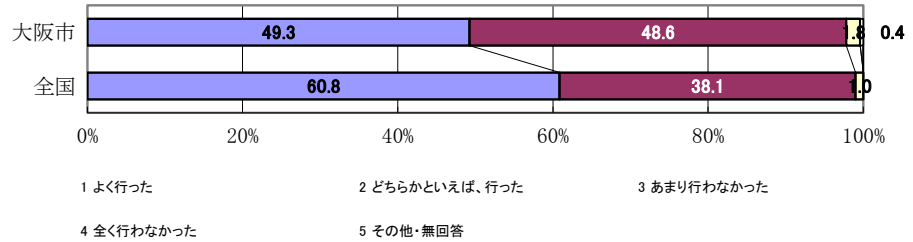
質問番号

質問事項

13

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する(褒めるなど)取組を行った

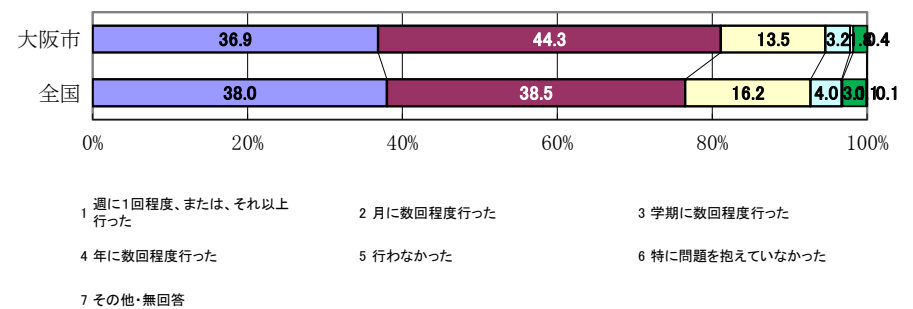
学校 「よく行った」を選択



14

校長として、よりよい学校運営を行うために、前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか

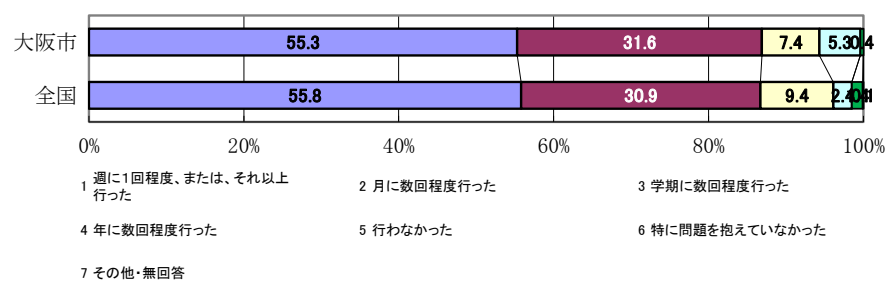
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



15

校長として、よりよい学校運営を行うために、前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか

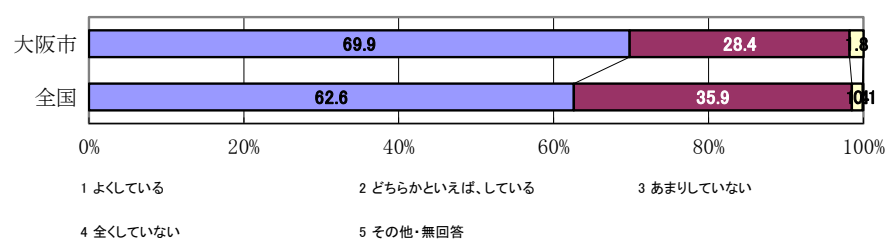
学校 「週に1回程度、または、それ以上行った」を選択



22

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っている

学校 「よくしている」を選択



55

調査対象である第6学年の児童に対する、前年度までのICT機器の活用状況として、あなたの学校では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択

